

一般社団法人日本社会福祉学会第70回春季大会報告

全国大会運営委員春季大会担当
岡田 進一(大阪公立大学)

大会テーマ:格差社会解消へのアプローチを求めて

開催日時: 2022年5月29日(日) 13:00~17:30

会場 : WEB開催

今回、2022年5月29日(日)の13:00~17:30の4時間半にわたり、WEBにおいて、一般社団法人日本社会福祉学会第70回春季大会が、「格差社会解消へのアプローチを求めて」という大会テーマで開催されました。なお、本大会は、コロナ感染症拡大防止のためWEB開催とさせて頂きました。

最初に、会長の空閑浩人氏より、大会開会の挨拶がありました。今回は、日本社会福祉学会2021年度学術賞受賞者が2名であったため、2名の方、それぞれに受賞者講演を行って頂きました。まず、「ソーシャルワークはマイノリティをどう捉えてきたのかー制度的人種差別とアメリカ社会福祉史」と題して、西崎緑氏(熊本学園大学)により講演が行われました。続いて、平野隆之氏(日本福祉大学)により、「地域福祉マネジメントー地域福祉と包括的支援体制」と題して講演が行われました。それぞれの講演は、わかりやすく、また、今後のソーシャルワーク実践のあり方を考えるきっかけとなったと考えます。

学術賞受賞者講演に続いて、「格差社会解消へのアプローチを求めて」というテーマで、シンポジウムが行われました。シンポジストは、阿部彩氏(東京都立大学)、近藤尚己氏(京都大学)で、コメンテーターは、垣田裕介氏(大阪公立大学)、コーディネーターは、岡田進一(大阪公立大学)が務めました。

第1番目に、阿部彩氏が、「許容され難き格差とはー子どもの格差から考える」という内容で、プレゼンテーションを行いました。その内容は、「格差」と「貧困」の違い、日本における2000年以降の「格差」拡大の傾向分析、「格差」問題についての論点整理、子どもにおける格差の状況などでした。また、さまざまな「格差」が、相対的な貧困と関連し、また、国際的なデータ分析から、「格差」が子どものウェルビーイング全体に影響を与えていることが伺えると述べられました。日本における実証研究は少なく、断定的なことは言えないとしながらも、日本社会における「格差」は自己増長傾向にあり、「誰もが自己防衛」する日本社会においては、ますます格差が拡大していくのではないかと懸念を述べられました。そして、今後、学会においても、「貧困」や「格差」に関する学術的な議論が必要ではないかと述べられ、プレゼンテーションを終えられました。

第2番目に、近藤尚己氏が、「格差解消に向けた福祉と医療の連携」という内容で、プレゼンテーションを行いました。その内容は、公衆衛生学における健康格差是正へのアプローチとしてのポピュレ

ーションアプローチの内容、ポピュレーションアプローチへの批判の内容、日本老年学的評価研究で行われた調査結果の内容、社会福祉に関連する政策動向、子どもを対象とした地域包括支援システムの紹介、健康格差是正を目指した地域づくりの具体的な事例紹介などでした。そして、健康格差の解消を考えるにあたっては、社会的な処方システムの構築が必要であり、医療だけでは、完結できず、ユニバーサルな環境づくりを行いながら、福祉と医療が適切な連携を行っていくことが重要であると述べられ、プレゼンテーションを終えられました。

続いて、垣田裕介氏が、お二人のプレゼンテーションの論点整理を行い、また、お二人のプレゼンテーションの内容に対するコメントを行いました。その後、参加者からもさまざまな質問が寄せられ、有意義なシンポジウムとなりました。

最後に、副会長の保正友子氏が、閉会の挨拶をされ、無事、第70回春季大会が閉会となりました。

最後になりましたが、本大会の開催にあたりご協力を賜りました多くの会員や関係者の皆様には心よりお礼を申し上げます。